

聖書：マタイ 5：8

説教題：心のきよい者は幸い

日時：2017年7月16日（朝拝）

山上の説教の冒頭に記されている「幸いについての教え」、今日はその6つ目となります。この8節はこれまで見て来た言葉の中では一番もっともな言葉ではないでしょうか。というのは、ここで述べられている幸いはこの世の考え方とは大きく異なるものが多いからです。3節に「心の貧しい者は幸いです」とありました。なぜ貧しい者が幸いなのか。また4節に「悲しむ者が幸いです」とありました。なぜ悲しむ者が幸せなのか。普通はこれらの反対が幸いだと思います。それに対して今日のみことばにはほとんど異論が出ないように思います。「心のきよい者は幸い」。確かにそうだろうと思います。心のきよい人間になればどんなに素晴らしいか。その一方、この御言葉は私たちをあまり引き付けるものではないかもしれません。なぜなら私たちは心のきよい人間ではないからです。だから私と関係がある御言葉とはとても思えない。その意味で読んだ瞬間から落胆を覚えずにいられないような言葉でもあるのではないのでしょうか。しかし覚えるべきは、この山上の説教で語られている8つの幸いは、これとこれとは自分に当てはまるが、これとこれとは当てはまらないと考えられるものではないことです。これは天国の民に全部当てはまるものとして語られています。もし3節や4節が自分に当てはまるなら、今日の8節も自分に当てはまる。別な言い方をすれば、クリスチャンとはこの全部に当てはまる人です。その観点から私たちはこの8節の意味を考えて行きたいと思います。果たしてこれは自分にどのように当てはまるのか。また当てはまるとしたら自分はここからどういう生活が導かれるべきなのかと。

まずイエス様はここで「心の」きよい者は、と言われました。「心」に焦点が当てられています。心とはその人の人格の中心です。外側の見た目のことではありません。私たちは外側をきれいにすることはできます。素敵な服を着て、素敵な髪型にして、素敵な持ち物を持ち、素敵な町を歩けば、ショーウィンドーに映る自分を見て素敵な人間になったと思うかもしれません。しかし神が見ているのは外側ではありません。1サムエル16章7節：「人はうわべを見るが、主は心を見る。」 私たちは人の心の中までは見ることはできませんから、外側から色々評価します。しかし主は「心」を見ると言われています。そして今引用した1サムエル16章の文脈でもそうであるように、外側だけを見る「人の評価」と、心を見る「神の評価」とは往々にして異なるものです。私たち

の間で素晴らしいと思われている人が神の前では全然そうでなく、反対に私たちの間で全く評価されていない人が、神の前では真に評価される。当時、自分たちは立派で良くやっていると自負していたパリサイ人たち、また人々からも高く評価されていたパリサイ人たちに対して、イエス様がこう言われた言葉もあります。マタイの福音書 23 章 25～28 節：「わざわざ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。わざわざ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいです。そのように、おまえたちも外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。」

この「心のきよい」という言葉の意味について、学者たちは、道徳的なきよさとともに、もう一つの意味があると言っています。それは二心ではなく、純真であるという意味です。真心から神に向かう心の状態を意味していると。参考になるのはヤコブの手紙 4 章 8 節の「二心の人たち。心を清くしなさい。」という言葉です。この言葉によれば、心を清くすることとは二心の状態をやめることです。神を信じると言いながら、他のものにも信頼し、結局は真の意味で神に信頼していない生活をするのではなく、神に全く信頼する一つ心で神に近づき、神とともに歩むことです。心がきよいとは、そのように神への心が純粹で、混じりけがないことであると。この二つの意味はもちろんつながっていると思います。もしある人が道徳的にきよい心を保って歩んでいるなら、それは神にこそ心を向けて歩んでいるからでしょう。反対にもしその心が悪に染まった状態にあるなら、それは神に真心から自分をささげて歩んでいないからでしょう。

さて、では私の心はどうでしょうか。自分の心はきよい清状態にあると言える人は、どれくらいいるのでしょうか。聖書は私たちの心についてこのように言っています。マルコの福音書 7 章 20～23 節：「人から出るもの、これが、人を汚すのです。内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」 私たちの心は、こういう悪徳が次々に湧き出す泉のようなものです。エレミヤ書 17 章 9 節：「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」 このような心を持つ私たちにとって、「心のきよい者は、云々」という御言葉は、ただ絶望をもたらすだけの言葉なのではないでしょ

うか。

しかし今日の御言葉は決して「絵に描いた餅」のようなものではありません。イエス様がこれを語られたということは、この状態に私たちも達し得るということです。それはどのようにしてでしょう。これまでも見て来た通り、私たちは今日の御言葉もこれまで見て来た御言葉とのつながりで読む必要があります。まず3節に「心の貧しい者は幸いです」とありました。また4節に「悲しむ者は幸いです」とありました。こういった御言葉の後で今日の8節が出て来ています。すなわち心のきよい者になる道とは、自分が徹底的に貧しい者、汚れ切った人間であることを認め、悲しむことから始まるということです。自分の心はきよくないこと、その反対のどうしようもないみじめな状態にあることを認めて、それを神に告白し、嘆くこと。そんな者に聖書は福音を語っています。詩篇 51 篇 10 節：「神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。」 ご存知の通り、この詩篇はダビデの悔い改めの詩篇です。彼は自分自身の汚れに絶望していますが、その彼にはこう祈ることが許されていました。7節にもこうあります。「ヒソプをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなります。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなります。」つまり、私たちは自分で自分の心をきよめることはできませんが、神はそれを行うことができるのです。神は私の罪を赦し、聖め、私にきよい心を造ることがおできになる。これはもちろんキリストの十字架の贖いを通してでしょう。ここに私たちがまさかの状態、すなわちきよい心を持つ者となる道があるのです。

そして一度この心を頂くだけでなく、この恵みの状態に継続して生き続けることが大切でしょう。一度、根本的な罪の赦しを頂いても、また罪を犯す私たちです。そこできよめられた心はまたすぐ曇ってしまいます。どうすれば良いでしょうか。聖書の答えは、繰り返し悔い改めることです。Iヨハネ1章9節：「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」 さっき悔い改めたばかりなのに、またか！と自分の現実に失望するようなことがあっても、これしか私たちに希望はありません。神にその罪を告白し、赦しを請うなら、神は赦すばかりか、さらにきよめてくださると約束されています。そしてその感謝をもって、真心から神を仰ぎ、神に従う歩みへ進むことが大切です。先に引用したヤコブ書4章8節にこうあります。「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人た

ち。心を清くしなさい。」 神の赦しと聖めを感謝して、一つ心で神に近づく生活を  
する。二心を悔い改め、澄んだ心で神に従う歩みをする。こうして私たちは「心のきよい  
者」の歩みへと向かって行くことができるのです。

そのような者への祝福が8節後半に語られています。「その人たちは神を見るから。」  
これは考え得る最高の祝福と言えます。モーセはかつて主に「あなたの栄光を見せてく  
ださい」と願い出ましたが、主はこう仰せられました。「あなたはわたしの顔を見るこ  
とはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」 地  
上にあつて罪ある人間は聖なる神を見ることはできないと言われました。またヘブル書  
12章14節にこうあります。「聖くなければ、だれも主を見ることはできません。」 神  
を見るにはまず私たち自身がきよくなければならぬ。そうでないと神のきよさに私た  
ちが耐えられず、滅んでしまうからということがあるでしょう。しかしもう一つの側面  
から言えば、神と同じ性質を持つ者とならなければ、私たちは神を見たり、知ることが  
できないということがあると思います。参考になるのはIヨハネ4章8節にこうあるこ  
とです。「愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」 ここに神  
を知るには私たちが愛を持っている者でなければならぬと言われています。愛を知り、  
愛を持っている者のみが、愛なる神を知り、味わうことができる。これは色々なことに  
当てはまると思います。音楽は音楽を良く知っている人の方が味わえます。同じオーケ  
ストラの演奏を聞いても、ある人は眠くなり、あくびをしているのに、ある人は目を輝  
かせ、心躍らせながら聞き入っている。やはりその音楽を理解する力、能力、性質を持  
っている人の方が、はるかに良くその音楽を堪能し、楽しむことができます。また美術  
館などを歩いていても私などは最初に展示されている数枚の絵は注意深く見るものの、  
次第にどれもこれも同じように見えて来て、歩くペースが出口に向かってだんだん早く  
なりますが、ある人は一つの作品の前に長い間たたずんでじっと見入っています。やっ  
と次の作品に移ったかと思うと、そこでもまたそうです。明らかにその人の方が、そこ  
にある物を良く鑑賞しています。鑑賞する力を持っていないと、そこに素晴らしいもの  
があっても、それを知ったり、味わうことができないのです。同じように私たちも自分  
自身がきよい心を持ってこそ、神を初めて見、また味わうことができる。神をその心の  
目に映すことができる。私たちの心が汚れていたり、濁っていても神は分からないので  
す。私たちの心が澄んでいてこそ、神を見ることができる。ヘブル書11章27節にモー  
セについて「目に見えない方を見るようにして、忍び通した」と記されている通り、こ  
の地上においても「見えない神を見るようにして生活する」ことができるのです。

そしてやはり、このみことばの究極的な実現は最後の日においてでしょう。私たちがこの地上で神を見るという経験は、やがての祝福に比べればおぼろげなものに過ぎません。1コリント13章に、今私たちは鏡にぼんやり映るものを見ているが、やがての日には顔と顔とを合わせて見ると言われています。Iヨハネ3章には、そのやがての日に初めて私たちはキリストのありのままの姿を見られると言っています。そしてヨハネの黙示録22章4節には素晴らしい約束が記されています。そこではやがての天の御国での生活のことが書かれていますが、そこに「神の御顔を仰ぎ見る」とあります。「見る」というのはただ興味本位の心で見るということではありません。私たちは素晴らしいものを見たら感動します。素晴らしい芸術作品や絵画を見て、それが良く分かる人は感動してそこに立ち尽くします。あるいは大自然の素晴らしい光景を見てもそうです。私は飛行機に乗るのはあまり得意ではありませんが、一方で飛行機の窓から見える光景に圧倒されたことはしばしばあります。小学生の頃、初めて飛行機に乗って雲の上に出た時、驚くほどまばゆい太陽の輝きの下、まさに澄み切った青一色の世界、そして眼下に雲のじゅうたんがどこまでも広がる光景を見た時、私はこんな世界があるのか！と心底びっくりしました。また韓国の釜山に長老教会の間安使として出かけた時、少し前に出かけた長野県松本市から見たあの中央アルプスの高い山々が上から見ると小さい模型のように見えたこと。また琵琶湖の上を通過し、山陰の海岸線をなぞるように一気に西へと進む様子を見てとても感動しました。また今回ではなく、前回のアメリカ宣教ツアーから戻って来る時、日本付近は下が一面雲で地形は何も見えないかなと残念に思っていたところ、何と富士山だけが分厚い雲から頭をポコッと突き出し、夕日に照らされている光景を見た時も、心からびっくりしました。こういったものに接すると、私たちは単に「見た」という程度で終わらず、感動し、心揺さぶられます。そしてその余り、誰かに話さずにいられません。しかし私たちはかの日に神を仰ぎ見るのです！聖なる聖なる聖なる神！私たちが愛して永遠の一人子さえも与えて下さった神！その方を仰ぎ見、親しく知ることは、何という感動と喜びと祝福を私たちにもたらすことでしょうか！そのためには、心がきよい者でなければならぬのです。そのような者とされてこそ、「神を見る」という究極の幸いは真実に私たちに成就するのです。

私たちはこの「神を見る」幸いをいくらかでもここで味わい知っているでしょうか。このことにまさる喜びは他に考えられません。これに比べたら地上の他のどんなことも全く取るに足りません。まさにちりあくたです。ゴミです。比較になりません。この幸

いは「心のきよい者」にのみ約束されています。神はキリストにあつて、この幸いを私たちに備えてくださいました。私たちは自分の心がきよくないことを思うなら、濁っていることを思うなら、そのことを正直に認めてダビデのように神に祈りたいと思います。「神よ、私にきよい心を造ってください」と。そしてキリストにある罪の赦しと聖めを頂いて、二心ではなく、一つ心で神を真心から仰ぎ、その御言葉に従う歩みへ進みたい。そうする人はこの地上でも見えない方を見るようにして歩む生活が導かれます。そしてその歩みの積み重ねの先に、神を最終的に仰ぎ見る祝福へと神は私たちを導いてくださるのです。